

# 平成 27 年度事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日  
至 平成 28 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

# 目 次

## I. 当法人の事業の状況

### 常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(8)
7. 国際学術交流委員会	(13)
8. 評議員選出委員会	(15)
9. 保険委員会	(15)
10. 倫理委員会	(15)
11. 腎不全総合対策委員会	(16)
12. 危機管理委員会	(16)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(17)

## II. 処務の概要

### ① 役員等に関する事項

(1) 理事	(18)
(2) 監事	(18)
(3) 評議員	(19)
(4) 退任した役員等	(24)
(5) 役員等の報酬等	(24)

② 会員に関する事項	(25)
------------	------

③ 職員に関する事項	(25)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(25)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(31)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(31)
---------------	------

### 事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(33)
2. その他の記載事項	(34)

# I. 当法人の事業の状況

## 常置委員会活動

### 1. 総務委員会

#### 1) 年次学術集会

第60回日本透析医学会学術集会は、東京女子医科大学第四内科 主任教授 新田孝作会長が主宰し、平成27年6月26日（金）、27日（土）、28日（日）の3日間に亘って、パシフィコ横浜等を会場として開催された。今回のメインテーマは「医理工連携と透析医療」を掲げて開催され、参加者は20,377名であった。

#### <特別講演>

『「腎性貧血」から「CKDに伴う貧血」へ』

「統計調査から見た腎性貧血治療ガイドラインの歴史と役割」

「日本医療研究開発機構のミッションと展望について」

「再生医療が切り拓く先端医療」

「在宅医療の未来」

「新しい専門医制度」

「血液浄化器はどのように誕生し、高性能化を求めてどのように進化してきたか」

「透析における終末期医療・ケアと望ましい死～豊かな生の総仕上げを目指して～」

#### <会長講演>

「血管石灰化の病態と治療」

#### <招請講演>

「Setting a new Public Health Objective for Dialysis outcomes」

「A Reexamination of the Body Mass Index-Mortality Relationship in Maintenance Hemodialysis Patients」

「Phosphate Regulation in CKD : Biomarkers and Therapeutic Directions」

「International Society of Nephrology's 0 by 25 Initiative for Acute Kidney Injury」

#### <企業共催招請講演>

「WHAT IS NEW IN UREMIC TOXICITY ANNO 2015?」

#### <シンポジウム>

「CKD-MBDと他臓器連関（臨床への提言）」、「透析患者の心血管合併症のUp-to-date」, 「2015腎性貧血ガイドラインの改定ポイント」, 「高齢血液透析患者の管理：EBMとADLによる目標」, 「JSDT2015 PDOPPS Symposium」, 「透析医でもある移植医からみた先行的腎移植」, 「AKIによる多臓器不全と急性血液浄化」, 「腹膜透析液の課題と未来」, 「シャント狭窄に対する最新診療—病態解明から遺伝子治療まで—」, 「ハイリスク腎移植レシピエント」, 「透析医療における感染対策～マニュアルからガイドラインへ」, 「バスキュラーアクセス—その温故知新—」, 「オンラインHDFの現状と将来展望」, 「高齢ドナー、レシピエントの腎移植はいまどこまで進歩したか？」

#### <ワークショップ>

「過剰血流、スチール症候群に対する治療法」, 「透析患者における抗がん剤治療の現状」, 「透析療法における医療情報の活用とその展望」, 「ダイアライザの性能と治療効果」, 「腹膜透析患者の看護と介護—在宅診療と医療連携—」, 「透析患者の消化器疾患と手術」, 「HDFフィルタの適応を考える」, 「透析患者の在宅療養生活支援のための連携～誰との連携か？連携強化の可能性をさぐる～」, 「伴侶動物の腎機能障害と血液透析」, 「血液浄化におけるモニタリング技術とその展開を考える」, 「長時間頻回透析に望まれる透析液組成」, 「腎性貧血治療における鉄を考える」, 「透析施設における事前指示書の運用」, 「CKD-MBDを巡る

Key Word：基礎を踏まえた臨床」

#### <学会・委員会企画>

『腎不全総合対策委員会：「ESRD：わが国の現状と課題」』、『血液浄化の機能・効率に関する小委員会・ISO対策ワーキンググループ合同委員会：「コンセンサスカンファレンス：透析液水質基準の改定」』、『危機管理委員会：「災害時透析医療におけるコンセンサス」』、『学術委員会：「Dialysis therapy, year in review 2014」』、『血液浄化の機能・効率に関する小委員会：「生体適合性のよいバイオマテリアルの設計概念」』、『専門医制度委員会と男女共同参画推進小委員会の合同企画：「専門医制度の課題」』、『医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会企画：「各種コメディカルからみた透析療法の変遷と将来」』、『保険委員会：「透析医療の費用対効果：診療報酬改定に資するもの」』、『血液浄化に関する新技術検討小委員会：「一つ先の技術を臨床に展開するための医理工連携」』

#### <教育講演>

「透析患者と血管石灰化」, 「CKD患者の心疾患治療戦略とチーム診療の重要性」, 「透析患者の心疾患 up to date」, 「CAPD最新の知見」, 「透析と精神医学：最近の知見」, 「On line HDFの最新の知見」, 「先行的腎移植」, 「知って得する透析患者の腎癌 最近の知見」, 「これからのバスキュラーアクセスを考える」, 「在宅血液透析」, 「透析患者のSASとRLS 特に病態と治療」, 「透析療法の動向～統計から見えてくるもの～」, 「透析と医療経済」, 「CAPD合併症の克服」, 「腎性貧血とHIF」, 「透析と再生医療」, 「CKD骨病変の基礎と臨床」, 「CKD-MBD最近の知見」, 「血液透析患者の血圧管理～予後を考慮したベストな血圧管理の実践を目指して～」, 「PADの総合診療」, 「血液透析における凝固止血異常とそれに伴う血栓塞栓症—ヘパリン起因性血小板減少症の関与を考える」, 「CKDと脳血管障害」, 「糖尿病透析患者での動脈硬化進展防止に向けた戦略」, 「透析患者の脂質異常」, 「血液浄化器の特徴と性能」, 「急性血液浄化療法の最新の知見」

#### <よくわかるシリーズ>

「実践的な透析指標の見方, 考え方」, 「On line HDFの具体方法」, 「透析患者の栄養管理の実際 (1)」, 「透析患者の栄養管理の実際 (2)」, 「基礎からのヒューマンエラーと人間工学」, 「腎不全治療に携わる看護師が知っておきたい腎移植の知識」, 「糖尿病透析患者の血糖管理」, 「実践的な透析患者の心臓のみかた」, 「在宅医療の実際—アシストPDや血液透析患者への応用—」, 「認知症の理解と対応」, 「二次性副甲状腺機能亢進症の薬物療法～活性型ビタミンDとシナカルセット～」, 「リン管理の実際—食品, 飲料からの無機リンを見直そう—」, 「水質管理の実際」, 「全自動透析装置について」, 「アクセスの管理の実際」, 「透析患者への運動療法実施にあたって知っておきたいこと」, 「カルニチン」, 「NOACとはなにか」, 「PD/HD併用療法の実際」, 「急性腎傷害 (AKI) ～概念・診断・対策～」, 「高カリウム血症 up to date」, 「透析患者の感染症」

#### <市民公開講座>

平成27年7月5日(日) 東京女子医科大学で開催された。

#### 2) 通常総会

第60回通常総会を, 平成27年6月25日(木) 15:00～ 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 会議センター「301+302」において, 開催した。定款第30号に基づき, 定足数以上の評議員の出席が確認され, 本総会は適法に成立した。定款第28条に基づき, 第60回学術集会・総会会長である新田孝作会長が議長を務めるところであるが, 理事長が会長を兼ねているため, 峰島三千男副会長が議長を務めた。各常置委員長から資料に基づき, 平成26年度事業報告の説明及び平成27年度事業計画の報告があり承認された。平成26年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等, 平成26年度公益目的支出計画実施報告書, 監事による監査報告があり承認された。平成30年第63回学術集会・総会会長候補として兵庫医科大学内科学腎・透析科教授中西 健先生を理事会で承認されたとの報告があった。

また, 理事会で承認され, 本総会に推薦された井関邦敏先生, 草野英二先生及び椿原美治先生の名誉会員

表彰と学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、平成27年6月27日（土）パシフィコ横浜第一会場 メインホールで授与式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

### 3) 役員会

- ・常任理事会：平成27年5月16日、6月25日、12月4日、平成28年3月25日に開催
- ・理事会開催：平成27年5月16日・6月25日・12月4日・平成28年3月25日に開催
- ・監事による監査会開催：平成27年5月15日に開催

### 4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

### 5) 総務委員会

会員に便宜を図るため、本学会あり方小委員会および理事会に会員証の発行を提案し承認されたので、第61回学術集会・総会にあわせて正会員に会員証を発行することとなった。

### 6) 総務委員会各小委員会

#### (1) HP・電算機小委員会

- ① 学会ホームページの円滑な運営、内容の充実を図った。
  - a. 学術集会・総会等最新の学会情報を逐次掲載した。
  - b. 事業報告、事業計画、財務資料を逐次公開した。
  - c. 文部科学省、厚生労働省、関係省庁・関連団体からの通知を逐次掲載した。
  - d. 医療機器、医薬品の回収等、医療安全情報を逐次掲載した。

② 透析装置の通信共通プロトコルバージョンアップについて検討した。

#### (2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

- ① 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行った。
- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行った。
- ③ 栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成事業（CKD分野）における助言を行った。

#### (3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応するが、今年度は事例がなかった。

#### (4) 男女共同参画推進小委員会

第60回日本透析医学会学術集会・総会において、専門医制度委員会と男女参画推進小委員会の合同企画「専門医制度の課題」を行った。

各常置委員会、学術集会・総会における女性会員の起用を要望した。

また、学術集会・総会で、乳児から小学生までの託児所の開設を要望した。

専門医制度において、女性会員の妊娠、出産、育児、介護と学会活動の支援を検討した。

多職種の男女共同参画状況と問題についてワーキンググループを設置し検討を始めた。

女性医師育成のため、ワーキンググループを設置し検討を始めた。

#### (5) 統計調査のあり方小委員会

- ① 2015年度の匿名化調査実施に際して、方法論の確認、倫理的妥当性の検証を行った。
- ② 統計調査を利用した学術研究の推進の活性化計画、そのための学術委員会との組織改編について検討した。
- ③ 公募研究あるいは公募委員の可能性について統計調査委員会に検討を指示した。
- ④ RRT誌への発表を奨励することとした。
- ⑤ 委員会報告、公募研究発表の際のAuthorship、投稿経費などについて内規の整備が必要と統計調査委



員会に指示した。

⑥ 新規委託業者選定において、あり方委員会を中心とした業者選定委員会を決した。

(6) 発展途上国の若手医師・コメディカルに対する研修サポート小委員会

東南アジアの8か国を選定し、これらの国の透析スタッフ（医師、看護師、その他）に、わが国の透析施設で研修を受けてもらうプログラムの検討に入った。研修受け入れ施設としては、専門医制度委員会が認定する施設とし、各施設に対して研修受け入れの意思を問うアンケート調査を実施する。また各委員は、JSDTのガイドラインをベースに研修で使用するテキストを執筆し、新年度にはこれを全国に配布する。これらの活動を通じて、学会として継続的支援が可能な体制を模索する。

(7) 本学会あり方小委員会

本学会のあり方を検討する小委員会を設置した。

7) 学会との連絡、協力関係

日本医学会（評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員）

日本医学会連合

日本医師会

日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会

透析療法合同専門委員会（日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会）

内科系学会社会保険連合

臓器移植関連学会協議会

末期腎不全治療説明用小冊子作成

糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）

登録腎生検予後調査検討委員会

先行的献腎移植申請審査会

日本透析医会との連絡協議会

日本医療器材工業会等

感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力、連携をむすんでいる。

## 2. 財務委員会

平成27年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、平成28年度予算を作成した。

## 3. 編集委員会

1) 公式和文誌について

(1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、2015年4月から2016年3月までに12冊発行した。

発行部数は月平均16,575部であった。

また、第60回学術集会・総会特別号（抄録集）をSupplementとして発行した。

(2) 2015年4月～2016年3月の投稿数、掲載数は、論文投稿数103編、受理数68編、掲載された投稿論文74編（内訳：原著30編、症例報告39編、その他4編）。採択率は66%であった。

その他、第60回学術集会講演からの依頼論文等を掲載し、投稿論文を含め合計80編を掲載した。

(3) 電子ジャーナル

引き続き科学技術振興機構（JST）のJ-STAGEにて和文誌の電子ジャーナルを公開した。

## 2) 公式欧文誌について：Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD)

- (1) 欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として、引き続き刊行（2015年4月から2016年3月までに6回刊行）した。2015年も2014年度に引き続き、すべての投稿がOnline経由100%を継続した。2015年のインパクトファクター（IF）は1.705と2014年度に比べ0.173上昇し、ここ10年で最高値を更新した。
- (2) TAD誌を共同発行している国際アフェレシス学会（ISFA）と一般社団法人日本アフェレシス学会（JSFA）とともに、Wiley Blackwell社との出版契約を2017年1月1日付けで更新することを2015年6月11日の3学会合同協議にて合意した。この3学会の合意は2015年12月4日の理事会にて承認された。

## 3) 新規公式欧文誌について：Renal Replacement Therapy (RRT)

- (1) 2015年度の創刊が理事会で承認され、出版社BioMed Central社との出版契約を2015年4月1日付けで理事長名にて締結した。
- (2) 雑誌名はRenal Replacement Therapy (RRT) に決定し、Editor in Chiefは重松隆理事に決定し、Associate EditorやEditorial Board Memberを評議員並びに会員から指名し受諾をもって査読システムが構築された。査読システムはEditorial Managerを採用した。
- (3) 一般社団法人日本透析医学会の公式欧文誌として、Renal Replacement TherapyとしてWeb Journalにて2015年11月24日に創刊した。
- (4) 2016年3月31日の段階で、それまでに20編を出版した。内訳はResearch 11編、Review 7編、Case Report 1編、Editorial 1編であった。
- (5) Web Journalであるため、投稿・出版・閲覧状況がリアルタイムに把握できる。

## 4. 学術委員会

### 1) 学会賞・奨励賞の選出

#### <学会賞>

- ・平成27年度の学会賞は次の2編であり、6月27日の第60回学術集会・総会で表彰した。  
望月隆弘（亀田総合病院）  
「血液透析患者の貧血治療における最少至適フェリチン値とrHuEPO反応性の検討：EPOCH Study」  
透析会誌 2014；47(5)：313-321
- 喜多村真治（岡山大学）  
「The selection of peritoneal mesothelial cells is important for cell therapy to prevent peritoneal fibrosis.」  
Tissue Engineering Part A. 2014；20(3-4)：529-539

#### <奨励賞>

- ・平成27年度の奨励賞は次の1編であり、6月27日の第60回学術集会・総会で表彰した。  
菊地 勘（下落合クリニック）  
「Multicenter Study of Pegylated Interferon  $\alpha$ -2a Monotherapy for Hepatitis C Virus-Infected Patients on Hemodialysis：REACH Study」  
Therapeutic Apheresis and Dialysis. 2014；18(6)：603-611

### 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に行い、学術委員会関連小委員会と共同して行うべき学術活動に関して協議・遂行する。

### 3) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

- (1) ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し、新たな学術システムの構築の一つである year in review 2014 を第60回日本透析医学会学術集会・総会（平成27年6月）において委員会企画として開催

した。

(2) 透析会誌 2016 ; 49(2) : 159-162 に「Dialysis therapy. 2014 year in review, 日本透析医学会の新たな学術システムの構築」として報告した。

4) ガイドライン手順書作成ワーキンググループ (政金生人委員長)

(1) 当学会のガイドラインの意義, 構造, 作成・改訂手順を明確化し, 「日本透析医学会ガイドライン作成に関わる手順書 (仮題)」としてまとめ学会誌に報告すべく準備中である。

(2) 学術専門部小委員会と協力して, 新たなガイドライン作成, ガイドライン改訂スケジュールの策定について議論した。

5) 栄養問題検討ワーキンググループ (菅野義彦委員長)

統計調査委員会のデータを用いて, わが国の透析患者における栄養指標の評価を行うべく活動をした。

6) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ (山本裕康グループ長)

2012 年末より「2008 年版日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改訂作業を継続してきたが, 2015 年 3 月にガイドライン草案を作成, 同年 8 月に公聴会を開催し, 透析会誌 2016 ; 49(2) : 89-158 に「2015 年版 日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」として上梓した。今後, 本学会英文誌 Renal Replacement Therapy に英語版を発表する予定である。

7) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会 (土田健司委員長)

学術委員会, 統計調査委員会と連携して, エビデンスの収集を行うとともに, 本学会第 60 回学術集会において学術委員会企画 Dialysis therapy, year in review 2014 を開催し, 透析会誌 2016 ; 49(2) : 159-162 に「Dialysis therapy. 2014 year in review, 日本透析医学会の新たな学術システムの構築」として報告した。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会 (峰島三千男委員長)

① 透析液水質基準の再検討を含めて, 日本臨床工学技士会, 日本医療機器テクノロジー協会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続し, 本邦の見解を ISO 基準へ反映すべく活動を行った。

第 60 回学術集会・総会において血液浄化の機能・効率に関する小委員会・ISO 対策ワーキンググループ合同委員会企画として「コンセンサスカンファレンス: 透析液水質基準の改定」を開催した。

② 血液浄化器の機能分類 2013 の再検討: S 型 (特別な機能) の明確化について検討し, 第 60 回学術集会・総会において血液浄化の機能・効率に関する小委員会企画として「生体適合性のよいバイオマテリアルの設計概念」を開催した。

③ 日本臨床工学技士会, 日本血液浄化技術学会の協力を得て透析液濃度測定の標準化を図るべく活動した。

④ 透析液組成の見直しについての検討を図るため, 透析液処方についてのアンケート調査を行った。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

① 第 60 回学術集会・総会 (平成 27 年 6 月) においても委員会で議論した成果を, 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「一つ先の技術を臨床に展開するための医理工連携」にて発表した。

② 委員会の成果を具体化するために, 臨床的な検討やものづくりに向けたシステム構築を進めた。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会 (伊丹儀友委員長)

① 第 60 回学術集会・総会において医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会企画「各種コメディカルからみた透析療法の変遷と将来」を開催し, 各職種の変遷と展望をまとめて発表した。

② 発表後, 各職種の教育・研究体制について委員会で討論した。

③ 学会内に医師の専門医教育などの教育・研究体制についての類似の委員会が存在する。そのような委員会との協力と統合についても討論した。



- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）  
コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。  
今年度は以下の3名への助成が決定した。（敬称略）
- ① 若山功治（東京女子医科大学臨床工学部）  
「透析中の運動療法が体内の溶質物の除去動態へ与える影響」
  - ② 北林 紘（新光会村上記念病院栄養科）  
「血液透析患者における舌圧測定の意義」
  - ③ 愛甲美穂（湘南鎌倉総合病院血液浄化センター）  
「運動療法を取り入れたフットケアプログラム（鎌倉分類）による末梢動脈疾患（PAD）発症・進展に対する抑制効果の探索的検討」

## 5. 統計調査委員会

### 統計調査委員会

- 1) 2014年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査・報告
  - (1) 2014年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の速報値を第60回学術集会・総会（横浜）においてポスター展示し、同内容のリーフレットを配布した。
  - (2) 今年度から図説現況は確定データにもとづいて作成し、CD-ROMを収載した上で2015年12月に会員施設に送付した。
  - (3) 「わが国の慢性透析療法の現況（2013年12月31日現在）」を日本透析医学会雑誌49巻1号に掲載した。
  - (4) 「腹膜透析（PD）レジストリ2014年末調査報告」を日本透析医学会雑誌49巻1号に掲載した。
  - (5) 上記の英文化・投稿作業中である。
  - (6) 図説現況報告PPTファイルの英文化・HP掲載の準備中である。
- 2) 2015年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査
  - (1) 2015年度調査から完全匿名化調査を実施し、2016年3月31日現在収集作業中である。
- 3) 「わが国の慢性透析療法の現況（2013年12月31日現在）」を An Overview of Regular Dialysis Treatment in Japan (as of 31 December 2013) として、Therapeutic Apheresis and Dialysis, Vol 19 Issue 6 に掲載した。
- 4) 「腹膜透析（PD）レジストリ2012年末調査報告」を Peritoneal Dialysis Registry With 2012 Survey Report として、Therapeutic Apheresis and Dialysis, Vol 19 Issue 6 に掲載した。
- 5) 第60回学術集会・総会において「透析療法の動向—統計から見えてくるもの—」と題する教育講演を行い、同名内容を日本透析医学会雑誌49巻3号に掲載した。
- 6) 日本透析医学会統計調査の倫理的妥当性の確立
  - (1) 2014年度中に整備した統計調査にかかわる実施計画書は2015年3月の日本透析医学会倫理審査委員会で承認され、2015年4月1日に通知された。
  - (2) 上記の報告を受け、実施計画を学会HPに掲載するとともに2015年8月11日にUMIN臨床試験登録システムに登録した。
- 7) 学術研究用データベースの整備・整備方法論の妥当性の検証
  - (1) 2000年から2014年まで蓄積された15年間の約75万件に及ぶ個別データの突合作業を完了し、学術研究用データベースが完成した。
  - (2) 上記の患者突合の方法論を第三者に委託して仕様書にまとめ、その再現性を確認した。
  - (3) 上記方法論について論文化作業中である。
  - (4) 学術研究を加速するために、研究用データセットの自動出力システムの構築に着手した。

## 8) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

- (1) 上記のデータベースを用いて、わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために必要な解析に着手した。
- (2) 学会内他委員会と協同した解析計画は、統計調査委員会解析小委員会において統括された。
- (3) 解析結果は国内外の関連学会において発表予定である。

## 9) 会員インセンティブの充実

- (1) 会員インセンティブの向上のため、ウェブ上で帳票を随意出力できるためのシステム構築に着手した。

## 10) 国内・国際協力の推進

- (1) US Renal Data System (USRDS) との学術交流会を 2015 年 8 月 7 日 (東京), 11 月 7 日 (サンディエゴ) で開催した。
- (2) Asian Renal Collaboration (ARC) の交流会に 2015 年 6 月 30 日 (ロンドン), 11 月 6 日 (サンディエゴ) 参加した。
- (3) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対するデータ提供は、例年通り行った。

## 11) 委託業者の見直し

- (1) 現在の調査業務の委託先との契約が 2017 年 3 月で満了するため、2017 年度以降の委託先について業者選定手順の策定に着手した。
- (2) 上記に伴い、委託業務指示書の整備を開始した。

### 統計解析小委員会

- 1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- 2) 下肢救済学会からの依頼共同研究について解析計画を立案し解析を開始した。
- 3) 外部委員を招いたデータ解析の研修会を 2015 年 4 月と 8 月に開催した。

### 地域協力小委員会

- 1) 2015 年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2015 年末アンケート調査送付施設を決定した。2014 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- 2) 統計調査への理解を深め会員のニーズを知るため、地域協力小委員へ統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。
- 3) 2015 年 6 月横浜において地域協力小委員会を開催し、匿名化調査の説明、地域のニーズのモニタリングを行った。

## 6. 専門医制度委員会

### 1) 専門医制度委員会

- (1) 全国規模として電解質透析研究会、地方学術集会として東京 PD 研究会を追加し、東京透析懇談会から東京透析研究会への名称変更を承認した。
- (2) 生涯教育プログラムを、11 地区の地方学術集会で実施した。
- (3) 新しい専門医制度について日本腎臓学会と意見交換し、お互いに協力し合うことで合意した。
- (4) 学術集会・総会期間中における教育講演などの出席をカードで管理する予定である。
- (5) 2 月 2 日に開催された一般社団法人日本医学会連合による新専門医制度説明会で、未承認領域専門医についての検討は遅れていることが報告された。

### 2) 研修プログラム小委員会

- (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針第 1 版に準じて、専攻医を主として育成する専門研修基幹施設と、専門研修基幹施設で研修できない部分を補う専門研修連携施設による施設群形成を検討するために、認定施設に専門研修基幹施設に移行する確認を行い、移行を希望する施設に実態調査を行った。

- (2) 各都道府県において、専門研修基幹施設への移行を希望する施設群一覧表を作成し、基幹施設としての認定の可否を検討した。
- (3) 今年度の専門医試験合格者の研修状況を検討し、作成した施設群一覧表にない専門研修基幹施設の追加を行い、認定の可否を検討した。
- (4) 日本専門医機構専門医に関する情報システム開発等事業報告書に準じて、専門研修プログラム第1版の改訂に着手した。

### 3) カリキュラム小委員会

- (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針第1版に準じて作製した専門研修カリキュラム第2版作製の整備を検討し、専門研修指導マニュアル第2版の改訂（目次の整備、略語集の作成、内容のブラッシュアップ）に着手し、専門研修トレーニング問題解説集第2版を改訂（目次の整備、ブラッシュアップ）し、専門医試験受験者に配布した。
- (2) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定した。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載した。

### 4) 専門医認定小委員会

- (1) 男女共同参画推進小委員会と共同で実施した女性医師に対するアンケート調査の結果をもとに、妊娠・出産・育児に配慮し、現行の規則を改訂した（週2日を2/4、週3日の勤務を3/4として、勤務実績に追加）。現行の規則を専門医制度とは別に、施行時期理事会一任の規則・規則施行細則を改訂した。
- (2) 現行および施行時期理事会一任の規則施行細則で、専門医試験受験のための論文業績内容を変更した（総説業績の削除、論文業績として、6月30日までに受理された論文の承認）。
- (3) 現行の規則で、透析専門医の基本領域として、現行は麻酔科指導医を認定しているが、施行時期理事会一任では麻酔科専門医を削除している、日本麻酔科学会の意向を確認したところ、日本専門医機構による透析専門医の認定状況をみたくうえで検討したいとの返事であった。
- (4) 施行時期理事会一任の規則で、透析専門医の基本領域として、救急科専門医を追加した。
- (5) eラーニング（医療安全、倫理、感染、災害、ガイドライン、診療ガイド、提言など）の検討を開始した。
- (6) 専門医の適正数と年間育成専攻医数の検討を開始した。

### 5) 専門医試験小委員会

- (1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定した。
- (2) 優良な試験問題400題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化の検討を開始した。
- (3) 専門医試験問題プールの管理体制についての検討を開始した。
- (4) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。

### 6) 施設認定小委員会

- (1) 現行の規則施行細則で誤解が生じる部分を削除した（認定施設の研修カリキュラム）。
- (2) 施行時期理事会一任の規則施行細則で誤解が生じる部分を削除した（合併症を有する維持透析患者数）。

- 7) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記のとおりである。

① 第 26 回専門医認定

申請受付会告	2015 年 3 号～5 号
申請書類受付	2015 年 6 月 1 日～6 月 30 日
申請者数	285 名
書類審査不適格者数	5 名
書類審査適格者数	280 名
専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10 月 18 日（第 3 日曜日）	
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	278 名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	2 名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	40 名
客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数	238 名（筆答・口頭試験 合格率 85.6%）
試験会場	都市センターホテル
適格者数	238 名／285 名（83.5%）

【専門医更新総数】

更新対象者数	1,288 名
更新申請者数	1,253 名
更新適格者数	1,253 名（合格率 100%）
更新申請受付会告	2015 年 8 号～10 号
更新申請書類受付	2015 年 11 月 1 日～11 月 30 日
第 1 回専門医認定（1991 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象者数	630 名
更新申請者数	603 名
更新適格者数	603 名
第 6 回専門医認定（1996 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象者数	91 名
更新申請者数	90 名
更新適格者数	90 名
第 11 回専門医認定（2000 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象者数	178 名
更新申請者数	177 名
更新適格者数	177 名
第 16 回専門医認定（2006 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象者数	160 名
更新申請者数	157 名
更新適格者数	157 名
第 21 回専門医認定（2006 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象者数	229 名
更新申請者数	226 名
更新適格者数	226 名

② 第 26 回指導医認定

申請受付会告	2015 年 10 号～12 号
--------	------------------

申請書類受付	2016年1月5日～2016年1月31日
申請者数	93名
適格者数	90名（合格率96.7%）

**【指導医更新総数】**

更新対象者数	479名
更新申請者数	415名
更新適格者数	415名（合格率100%）
更新申請受付会告	2015年9号～11号
更新申請書類受付	2015年12月1日～12月31日

第1回指導医認定（1991年度認定・2011年度最終更新）更新認定

更新対象者数	220名
更新申請者数	184名
更新適格者数	184名

第5回指導医認定（1995年度認定・2011年度最終更新）更新認定

更新対象者数	22名
更新申請者数	15名
更新適格者数	15名

第11回指導医認定（2001年度認定・2011年度最終更新）更新認定

更新対象者数	69名
更新申請者数	63名
更新適格者数	63名

第16回指導医認定（2006年度認定・2011年度最終更新）更新認定

更新対象者数	80名
更新申請者数	71名
更新適格者数	71名

第21回指導医認定（2011年度認定）更新認定

更新対象者数	88名
更新申請者数	82名
更新適格者数	82名

③ 第25回認定施設・教育関連施設認定

申請受付会告	2015年4号～6号
申請書類受付	2015年7月15日～8月15日
申請施設	認定施設 24施設
	教育関連施設 64施設
適格施設	認定施設 24施設（100%）
	教育関連施設 64施設（100%）

**【認定施設更新総数】**

更新対象施設数	177施設
認定施設	66施設
教育関連施設	111施設
更新申請施設数	149施設



認定施設	63 施設
教育関連施設	86 施設
更新適格施設数	148 施設
認定施設	62 施設
教育関連施設	86 施設
更新申請受付会告	2015 年 4 号～6 号
更新申請書類受付	2015 年 7 月 15 日～8 月 15 日
第 3 回認定施設・教育関連施設認定（1993 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象施設数	60 施設
認定施設	18 施設
教育関連施設	42 施設
更新申請施設数	49 施設
認定施設	17 施設
教育関連施設	32 施設
更新適格施設数	49 施設
認定施設	17 施設
教育関連施設	32 施設
第 5 回認定施設・教育関連施設認定（1995 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象施設数	37 施設
認定施設	10 施設
教育関連施設	27 施設
更新申請施設数	30 施設
認定施設	10 施設
教育関連施設	20 施設
更新適格施設数	29 施設
認定施設	9 施設
教育関連施設	20 施設
第 10 回認定施設・教育関連施設認定（2000 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象施設数	34 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	22 施設
更新申請施設数	29 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	17 施設
更新適格施設数	29 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	17 施設
第 15 回認定施設・教育関連施設認定（2006 年度認定・2011 年度最終更新）更新認定	
更新対象施設数	28 施設
認定施設	14 施設
教育関連施設	14 施設
更新申請施設数	25 施設
認定施設	13 施設

教育関連施設	12 施設
更新適格施設数	25 施設
認定施設	13 施設
教育関連施設	12 施設
第 20 回認定施設・教育関連施設認定（2011 年度認定）更新認定	
更新対象施設数	18 施設
認定施設	12 施設
教育関連施設	6 施設
更新申請施設数	16 施設
認定施設	11 施設
教育関連施設	5 施設
更新適格施設数	16 施設
認定施設	11 施設
教育関連施設	5 施設
④ 各小委員会の認定状況（2016 年 4 月 1 日現在で記載）	
専門医数	5,470 名 ※休会者・保留者含む
指導者数	1,933 名 ※休会者・保留者含む
施設認定数	計 1,117 施設
認定施設数	467 施設
教育関連施設数	650 施設

## 7. 国際学術交流委員会

1) 第 60 回日本透析医学会学術集会において以下のセッションを主催した。

### I Invited lectures

(1) Uremic toxin and bacterial flora in the GI tract

Timothy W. Meyer

Nephrology Division, Department of Medicine

(2) Prognosis and life expectancy of the patients on chronic dialysis

Kamyar Kalantar-Zadeh

Harold Simmons Center for Kidney Disease Research & Epidemiology

### II Special lecture

Epidemiology of the patients on chronic dialysis therapy in Japan

Kunitoshi Iseki

University of the Ryukyus, University Hospital

### III Symposium

#### 1. Symposium I

Present Status of Renal Replacement Therapy (HD, HDF & PD) in Asian Countries : What is your best RRT for dialysis patients?

(1) Myanmar (15 min presentation, 5 min discussion)

Khin Maung Maung Than, M.D.

(2) India (15 min presentation, 5 min discussion)

KS Nayak, M.D.

- (3) Vietnam (15 min presentation, 5 min discussion)  
Do Gia Tyuen, M.D.
- (4) China (15 min presentation, 5 min discussion)  
Liu Wen Hu, M.D., Ph.D.
- (5) Thailand (15 min presentation, 5 min discussion)  
Korntip Pattanasittangkur, M.D.
- (6) Hong Kong (15 min presentation, 5 min discussion)  
Philip K.T. Li, M.D.
- (7) Japan ; Quality of water for renal replacement therapy and education for clinical engineering technologist (7 min presentation, 3 min discussion)
- (8) Education and roles of nutrition in Japan (7 min presentation, 3 min discussion)  
Kenichi Miyamoto, R.D.
- (9) Support for developing countries by JSOT (7 min presentation, 3 min discussion)  
Akihiro Yamashita, Ph.D.

## 2. Symposium 2

What is the Optimal ESKD Care in the Super Aging Society?

- (1) Frail dialysis population : Growing burden for dialysis community  
Kirsten L Johansen, M.D.  
UCSF School of Medicine, USA
- (2) Poor short-term prognosis in the incident elderly Japanese dialysis patients  
Masahiko Yazawa, M.D.  
St Marianna University Hospital, Kanagawa
- (3) Decision/timing of dialysis initiation among elderly patients : A patient-centered care  
Ann M. O'Hare, M.D.  
VA Puget Sound Health Care, Renal Dialysis Unit, USA
- (4) Dialysis withholding/withdrawal : A proposal from the task force of JSOT and the reality in Japan  
Hiroyasu Yamamoto, M.D.  
Atsugi Municipal Hospital
- (5) Implementing a patient-centered palliative approach to dialysis care  
Sarbjit Vanita Jassal  
Health Policy, Management and Evaluation  
University Health Network

## IV 一般セッション

7 か国より、口演 7 題、ポスター 11 題の発表が行われた。

## V Welcome Party, Farewell Party

第 60 回学術集会では、Welcome Party は独自に開催せず、学会評議員懇親会と合同とした。Farewell Party は、海外からの参加者、演者、国際交流委員会委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、2015 年 6 月 27 日に、ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルにおいて開催した。

## VI Travel grant 等

Invited Lectur 演者には、講演料 2000 米ドル、交通費 4000 米ドルを支給し、symposist には、欧米演者に講演料 1000 米ドル、旅費 3000 米ドルを支給、アジア演者には講演料 10 万円、旅費 15 万円を支給した。一般演題は、7 か国より 18 名が発表し、Travel grant として一律 10 万円を支給した。

- 2) 国際交流派遣事業  
海外関連学会への交流委員派遣を今年度は見送った。
- 3) その他  
国内で開催される、関連する国際学会に各委員が独自に参加した。

## 8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第3回評議員を実施した。

- 1) 日本透析医学会評議員選出規則第7条に基づき、第3回評議員選挙について、学会誌10月号及びホームページにて公示を行い、また、有権者名簿、立候補資格、地区の定数、選挙期日などについて公示を行った。
- 2) 有権者から、平成27年11月20日までに有権者名簿に脱漏、誤記を認め、異議申し立てがあった際には、これを受け、異議について審議する予定であったが、異議は提出されなかった。
- 3) 平成27年11月20日立候補を締め切り、日本透析医学会誌12月号に立候補者名を地区別に公示した。
- 4) 平成27年12月1日までに立候補辞退届を受領することと定められていたが、届出はなかった。
- 5) 投票用紙を有権者に平成28年1月上旬に郵送した。
- 6) 平成28年2月15日に投票を締め切った。
- 7) 平成28年2月18日に立会人のもとに開票し、全国区、地方区の定数に応じて、有効投票数の多いものから順次当選者とした。
- 8) 選挙結果は平成28年2月22日に日本透析医学会ホームページ上に掲示した。
- 9) すみやかに当選者に通知し、日本透析医学会誌4月号に公示した。
- 10) 選挙結果発表日から14日以内に文書で届けられる異議申し立てはなく、開票結果は確定した。

## 9. 保険委員会

平成28年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本小児腎臓病学会、日本腹膜透析医学会並びに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行った。その結果、1) 在宅自己腹膜透析患者の導入後の初退院後の10日を限度に訪問看護を行い、実際の治療環境で手技指導、カテーテル管理等の指導・生活指導を行う。2) J038人工腎臓実施回数「1月に14回に限る」の回数制限の変更を提案した。平成28年度の診療報酬改定において「退院後訪問指導料 580点（1日につき）訪問看護同行加算 20点」として繁栄することができた。

第60回日本透析医学会学術集会・総会において「透析医療の費用対効果：診療報酬改定に資するもの」というテーマのもとに保険委員会企画を行った。第60回日本透析医学会学術集会・総会において「透析液水質確保に関する研修」を行い、専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会においても研修を実施した。

## 10. 倫理委員会

- 1) 倫理委員会の開催  
今年度は倫理委員会で審議する案件がなく、委員会は開催されなかった。
- 2) 個人情報管理  
個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり、
  - (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）  
10件申請があり、いずれも承認した。

- (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（第8条第4項関係）申請がなかった。

## 11. 腎不全総合対策委員会

### 1) 腎移植の普及に努めた。

- (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会と共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。
- (2) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な公開を積極的に進めた。腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、今年度も末期腎不全統計、preemptive 腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法の現況を継続的に集約し報告する筋道をたてた。さらにその成果を学会 Web、商業誌、monographなどで公開することを申し合わせた。
- (3) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかった。また生体腎移植の実態について啓発を行った。
- (4) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」、「病腎移植」の問題についても積極的な啓発活動を行った。

### 2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じた。

- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、円滑なレジストレーション、および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を継続して強化した。
- (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。
- (3) 厚生労働省が支援し、現在日本腎臓学会で行われている、CKD 重症予防対策についても継続して協力した。

### 3) 腹膜透析の普及に努めた。

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかけた。
- (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った。
- (3) 治療の標準化を推進するための方策として日本腹膜透析医学会や日本腎臓学会、日本小児腎臓病学会などと連携し、アンケート調査をもとに、現在の PD 医療における問題点を明らかにした。
- (4) 厚生労働科学研究費補助金「腎機能障害者の生活活動性を維持するための安全で効果的な腹膜透析法の普及のための対策」について報告を行った。

### 4) 腎代替療法の治療選択に対する公平性の維持に務めた。

- (1) 腎不全患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、作成 DVD を増刷し配布と普及に努めた。

### 5) 小児腎不全患者の現状と問題点、特に移行の問題、について把握した。

## 12. 危機管理委員会

- 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの提言をまとめたダイジェスト版（政金生人ワーキンググループ長ほか）を作成して、英語論文化を進めた。
- 2) 大規模災害下の透析医療のコンセンサス作りの一環として、第60回日本透析医学会学術集会・総会におい



て、委員会企画「災害時透析医療におけるコンセンサス」を行い、内容をとりまとめ、日本透析医学会雑誌に委員会報告として掲載した（安藤亮一，山川智之，宮崎真理子，木村朋由，佐藤壽伸，菅野有造，本間崇，佐藤久光，木全直樹，風間順一郎，赤塚東司雄：委員会報告「災害時透析医療のコンセンサス」透析会誌2015；48(11)：683-690）。

- 3) 統計調査委員会の協力のもと，東日本大震災の透析患者の病態，生命予後に与える影響について解析し，委員会企画に報告した。
- 4) 地域透析医療災害対策の現状についてのアンケート調査結果を集計し，委員会企画にて報告した。
- 5) 日本透析医学会の理事，危機管理委員会，統計調査委員会，地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し，災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した。
- 6) 厚生労働省等から報告される，薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で，透析医療に関わるものについて，日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図った。
- 7) 10月1日から施行された医療事故調査制度に対応して，本学会が調査支援団体となり，医療事故の判断に関する相談および院内調査に関わる専門家の派遣を担当することとなり，本委員会が実務を担当することとなった。
- 8) 組織を改編し，危機管理委員会の下に，災害対策小委員会（委員長 山川智之）と医療安全対策小委員会（委員長 安藤亮一）を立ち上げ，各々委員を任命した。また，医療安全対策小委員会の下に，前述した医療事故調査を担当する各地区の調査委員を決定し，委嘱した。
- 9) 日本医療安全調査機構の協力団体となり，センター調査における個別調査部会に推薦窓口担当者，専門委員を推薦し，委嘱した。
- 10) 2016年の第61回日本透析医学会学術集会・総会において，委員会企画として，「経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策」と「医療事故調査制度をどのように理解し対応するか」を企画した。
- 11) 災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案，透析医療における安全管理，および関連団体の学術活動への協力を行った。

### 13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき，利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。
  - (1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
  - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
  - (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出なお，会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく，それに伴う当委員会の開催はなかった。
- 2) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」及び「医学研究の利益相反に関する指針」に関する取扱い細則の改定  
2015年3月27日開催の理事会で承認を受けた指針ならびに取扱い細則の改定を学会誌に掲載し，学会ホームページに公開した。

## Ⅱ. 処務の概要

### ① 役員等に関する事項

#### (1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	新田孝作	平成26年6月12日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	中西健	同	非常勤	なし	
同	水口潤	同	非常勤	なし	
理事	安藤亮一	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	伊丹儀友	同	非常勤	なし	
同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	中元秀友	同	非常勤	なし	
同	林松彦	同	非常勤	なし	
同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
同	政金生人	同	非常勤	なし	
同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
同	吉田克法	同	非常勤	なし	

#### (2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	相川厚	平成26年6月12日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	宍戸寛治	同	非常勤	なし	
同	仲谷達也	同	非常勤	なし	

## (3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	相川 厚	平成26年6月12日～選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	赤井 靖宏	同	非常勤	なし	
3	同	浅野 友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部 貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部 雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	雨宮 守正	同	非常勤	なし	
7	同	荒川 俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	有蘭 健二	同	非常勤	なし	
9	同	有村 徹朗	同	非常勤	なし	
10	同	安藤 哲郎	同	非常勤	なし	
11	同	安藤 稔	同	非常勤	なし	
12	同	安藤 康宏	同	非常勤	なし	
13	同	安藤 亮一	同	非常勤	なし	
14	同	家原 典之	同	非常勤	なし	
15	同	猪阪 善隆	同	非常勤	なし	
16	同	石光 俊彦	同	非常勤	なし	
17	同	和泉 雅章	同	非常勤	なし	
18	同	板垣 信生	同	非常勤	なし	
19	同	伊丹 儀友	同	非常勤	なし	
20	同	井出 健太郎	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤 哲二	同	非常勤	なし	
22	同	伊東 稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤 恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲葉 雅章	同	非常勤	なし	
25	同	今田 崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田 直樹	同	非常勤	なし	
27	同	今福 俊夫	同	非常勤	なし	
28	同	植木 嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	宇田 晋	同	非常勤	なし	
30	同	内田 信一	同	非常勤	なし	
31	同	宇津 貴	同	非常勤	なし	
32	同	大城戸 一郎	同	非常勤	なし	
33	同	大城 吉則	同	非常勤	なし	
34	同	大園 誠一郎	同	非常勤	なし	
35	同	大田 和道	同	非常勤	なし	
36	同	大家 基嗣	同	非常勤	なし	
37	同	大山 力	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田 一 義	同	非常勤	なし	
39	同	岡田 浩 一	同	非常勤	なし	
40	同	尾形 聡	同	非常勤	なし	
41	同	緒方 浩 顕	同	非常勤	なし	
42	同	小川 哲 也	同	非常勤	なし	
43	同	小川 智 也	同	非常勤	なし	
44	同	奥野 仙 二	同	非常勤	なし	
45	同	小倉 誠	同	非常勤	なし	
46	同	小田 寛	同	非常勤	なし	
47	同	角田 隆 俊	同	非常勤	なし	
48	同	笠井 健 司	同	非常勤	なし	
49	同	風間 順 一 郎	同	非常勤	なし	
50	同	春日 弘 毅	同	非常勤	なし	
51	同	加藤 明 彦	同	非常勤	なし	
52	同	金井 英 俊	同	非常勤	なし	
53	同	金山 博 臣	同	非常勤	なし	
54	同	川合 徹	同	非常勤	なし	
55	同	河田 哲 也	同	非常勤	なし	
56	同	菅 政 治	同	非常勤	なし	
57	同	菅野 義 彦	同	非常勤	なし	
58	同	北村 真	同	非常勤	なし	
59	同	衣笠 えり子	同	非常勤	なし	
60	同	木全 直 樹	同	非常勤	なし	
61	同	久野 勉	同	非常勤	なし	
62	同	熊谷 裕 生	同	非常勤	なし	
63	同	倉賀野 隆 裕	同	非常勤	なし	
64	同	小岩 文 彦	同	非常勤	なし	
65	同	小松 絵 美	同	非常勤	なし	
66	同	小林 正 貴	同	非常勤	なし	
67	同	小松 康 宏	同	非常勤	なし	
68	同	小藪 助 成	同	非常勤	なし	
69	同	齋藤 修	同	非常勤	なし	
70	同	齋藤 満	同	非常勤	なし	
71	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
72	同	坂口 美 佳	同	非常勤	なし	
73	同	佐々木 環	同	非常勤	なし	
74	同	笹富 佳 江	同	非常勤	なし	
75	同	佐藤 滋	同	非常勤	なし	
76	同	佐藤 隆	同	非常勤	なし	
77	同	佐藤 武 司	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	佐藤 壽伸	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤 正嗣	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
81	同	三馬 省二	同	非常勤	なし	
82	同	重松 隆	同	非常勤	なし	
83	同	宍戸 治	同	非常勤	なし	
84	同	篠田 俊雄	同	非常勤	なし	
85	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
86	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
87	同	柴原 宏	同	非常勤	なし	
88	同	島田 基	同	非常勤	なし	
89	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
90	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉本 俊門	同	非常勤	なし	
93	同	杉山 斉	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 寿英	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 大	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
98	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
99	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
100	同	武田 一人	同	非常勤	なし	
101	同	竹中 恒夫	同	非常勤	なし	
102	同	竹本文 美	同	非常勤	なし	
103	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
104	同	田中 元子	同	非常勤	なし	
105	同	田邊 一成	同	非常勤	なし	
106	同	田畑 勉	同	非常勤	なし	
107	同	田原 英樹	同	非常勤	なし	
108	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
109	同	田村 禎一	同	非常勤	なし	
110	同	田村 雅仁	同	非常勤	なし	
111	同	塚本 雄介	同	非常勤	なし	
112	同	土田 健司	同	非常勤	なし	
113	同	土谷 健	同	非常勤	なし	
114	同	鶴岡 秀一	同	非常勤	なし	
115	同	鶴田 良成	同	非常勤	なし	
116	同	寺脇 博之	同	非常勤	なし	
117	同	土井 盛博	同	非常勤	なし	



	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	富永芳博	同	非常勤	なし	
119	同	友雅司	同	非常勤	なし	
120	同	戸谷義幸	同	非常勤	なし	
121	同	中井滋	同	非常勤	なし	
122	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
123	同	中里優一	同	非常勤	なし	
124	同	中澤速和	同	非常勤	なし	
125	同	長沢正樹	同	非常勤	なし	
126	同	中島一朗	同	非常勤	なし	
127	同	中島貞男	同	非常勤	なし	
128	同	長田太助	同	非常勤	なし	
129	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
130	同	中西健	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
133	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
134	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
135	同	中山昌明	同	非常勤	なし	
136	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
137	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
138	同	西慎一	同	非常勤	なし	
139	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
142	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
143	同	新田豊	同	非常勤	なし	
144	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
145	同	野崎剛	同	非常勤	なし	
146	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
147	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
148	同	蓮池由起子	同	非常勤	なし	
149	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
151	同	服部元史	同	非常勤	なし	
152	同	花岡一成	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
155	同	林晃一	同	非常勤	なし	
156	同	林晃正	同	非常勤	なし	
157	同	林松彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
159	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
160	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
161	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
162	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
163	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
164	同	深水圭	同	非常勤	なし	
165	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
166	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
167	同	藤森明	同	非常勤	なし	
168	同	測之上昌平	同	非常勤	なし	
169	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
170	同	古藺勉	同	非常勤	なし	
171	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
172	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
173	同	保利敬	同	非常勤	なし	
174	同	前野七門	同	非常勤	なし	
175	同	前波輝彦	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
178	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
179	同	松下和通	同	非常勤	なし	
180	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
181	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口潤	同	非常勤	なし	
184	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
185	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
186	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
187	同	宮崎良一	同	非常勤	なし	
188	同	宮田昭	同	非常勤	なし	
189	同	宮本賢一	同	非常勤	なし	
190	同	向山政志	同	非常勤	なし	
191	同	武藤重明	同	非常勤	なし	
192	同	村上円人	同	非常勤	なし	
193	同	室谷典義	同	非常勤	なし	
194	同	望月隆弘	同	非常勤	なし	
195	同	森典子	同	非常勤	なし	
196	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
197	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	柳田 太平	同	非常勤	なし	
199	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
200	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
201	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
202	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
203	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
205	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
206	同	横山 建二	同	非常勤	なし	
207	同	吉田 篤博	同	非常勤	なし	
208	同	吉田 一成	同	非常勤	なし	
209	同	吉田 克法	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
211	同	吉武 理	同	非常勤	なし	
212	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
213	同	吉矢 邦彦	同	非常勤	なし	
214	同	米田 龍生	同	非常勤	なし	
215	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
216	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
217	同	鷺田 直輝	同	非常勤	なし	
218	同	和田 篤志	同	非常勤	なし	
219	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	219名	なし	
合計	242名		



開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 6 月 25 日 第 2 回理事会	2) 保険委員会「高齢者社会に向けた在宅医療の検討小委員会（仮称）」 3) 危機管理委員会「災害対策小委員会（仮称）」「医療安全対策小委員会（仮称）」 5. 各常置委員会に一名以上の女性委員を起用する要望に関する件 6. 第 61 回（平成 28 年度）学術集会・総会に関する件 7. 第 62 回（平成 29 年度）学術集会・総会に関する件 8. 平成 27 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）に関する件 1) 発展途上国の若手医師・コメディカルへの研修サポート経費 2) 新技術に関わる原著論文等の投稿料（掲載料）の一部援助経費	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 27 年 12 月 4 日 第 3 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 幹事の交替に関する件 3. 常置委員会に小委員会等を新規に設置する件 4. 委員の委嘱に関する件 5. 第 61 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 6. 会員証カード化に関する件 7. 新規事業計画に伴う概算要求（案）に関する件 8. 平成 28 年度事業計画、概算要求および平成 27 年度事業報告の作成に関する件 9. 規則等の制定に関する件 1) 血液浄化に関する新技術研究助成規程（案）に関する件 2) 日本透析医学会統計調査（JRDR）を用いた研究の進め方に関する内規（案）に関する件 3) 日本透析医学会統計調査（JRDR）に関連する論文化に関する内規（案）に関する件 10. 規則等の一部改正に関する件 1) 現行 日本透析医学会専門医制度規則の一部改正（案）に関する件 2) 現行 日本透析医学会専門医制度規則施行細則の一部改正（案）に関する件 3) 理事会一任 日本透析医学会専門医制度規則施行細則の一部改正（案）に関する件 4) 日本透析医学会データベース貸与内規の一部改正（案）に関する件 11. 専門医制度委員会に関する件 1) 平成 27 年度第 26 回専門医認定試験結果に関する件 2) 認定施設・教育関連施設の新規認定、更新に関する件 12. 専門医制度規則施行細則第 25 条第 2 項に基づく関連学術集会の新規認定および名称変更に関する件 13. 「慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」(案) に関する件 14. Renal Replacement therapy 誌に関する件 15. 透析用原水に関する調査（案）の実施に関する件 16. C 型肝炎を合併する末期腎不全および透析患者に対する抗ウイルス剤についての要望書作成に関する件 17. 血漿交換療法用特定保険医療材料等の件についての要望書を作成する件 18. 血管石灰化予防の研究に関する研究班の設立依頼に関する件 19. 日本医療安全調査機構の医療安全分担金の他に事業資金助成金を支出する件 20. 第 61 回（平成 28 年度）学術集会・総会に関する件 21. 第 62 回（平成 29 年度）学術集会・総会に関する件 22. 第 63 回（平成 30 年度）学術集会・総会に関する件 23. 平成 28 年度理事会日程に関する件 24. 定款第 23 条第 2 項ただし書きに基づく事務局長等の重要な使用人の任免に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 継続審議 継続審議 継続審議 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 一部条件付与保留 全会一致で承認 不承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認







開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 9 月 11 日	6. 補正 Ca 誤集計への対応について	報告・承認
	7. 連結済み DB, 自動集計表等の活用方法について	報告・承認
	8. USRDS との情報交換について	報告・承認
平成 27 年 10 月 13 日	1. 2015 年匿名化調査の進行状況と 2014 年集計結果のスケジュール確認について	報告・承認
	2. 補正 Ca 濃度, HDF 置換液量 誤集計への対応について	報告・承認
	3. 2016JSDT 企画の進捗状況の確認について	報告・承認
	4. DB 貸与規程の変更について	報告・承認
	5. Autorship 規程・論文関連費用について	報告・承認
	6. 連結済み DB, 仕様書作成と検証経過について	報告・承認
	7. 2017 年末調査項目, 選択肢の改編について	報告・承認
平成 27 年 11 月 20 日	1. 1 年前に挙げた課題の達成度確認について	報告・承認
	2. 2015 年匿名化調査 回収後のスケジュールについて	報告・承認
	3. 業者選定スケジュールの確認について	報告・承認
	4. 補正 Ca 濃度, HDF 置換液量 誤集計への対応について	報告・承認
	5. DB 貸与規程の変更について	報告・承認
	6. 連結済み DB の仕様書作成と検証結果報告について	報告・承認
	7. Autorship 内規について	報告・承認
	8. 2016 年 JSDT 企画 進捗状況確認について	報告・承認
	9. 解析小委員会書式等の承認について	報告・承認
	10. 日本下肢救済・足病学会からの申請について	継続審議
	11. 2017 年調査項目, 選択肢の改編について	報告・承認
平成 28 年 2 月 19 日	1. 2015 年末調査進捗状況と匿名化不具合施設への今後の対応について	報告・承認
	2. 平成 28 年度年間スケジュールと事業計画 (案) について	報告・承認
	3. DB の呼称について	報告・承認
	4. 業者選定スケジュールの確認と仕様書の作成, 指名業者の検討について	報告・承認
	5. 2012 年, 2013 年, 2014 年誤集計の報告と今後の対応について	報告・承認
	6. 会員専用ホームページでの自動集計プログラム開発について	報告・承認
	7. 英語版ホームページの充実について	報告・承認
	8. 日本透析医学会統計調査資料に関連する論文化の内規について	報告・承認
	9. 2016JSDT 企画の進捗状況について	報告・承認
	10. 都道府県独自の判断による統計調査データの利用について	報告
・ 専門医制度委員会		
平成 27 年 5 月 7 日	1. 専門医資格喪失の異議申し立てについて	全会一致で承認
平成 27 年 9 月 11 日	1. 2015 年度専門医認定申請書類審査について	全会一致で承認
	2. 2015 年度第 26 回専門医認定試験要項について	全会一致で承認
	3. 2015 年度専門医認定試験について	全会一致で承認
	4. 専門医制度規則施行細則第 25 条第 2 項に基づく関連学術集会の新規認定および名称変更に関する件	全会一致で承認
	6. 専門医登録簿削除について	全会一致で承認
	7. 理事会一任 専門医制度規則の一部改正 (案) について	全会一致で承認
平成 27 年 11 月 13 日	1. 2015 年度第 26 回専門医認定試験判定結果について	全会一致で承認
	2. 2015 年度認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査結果について	全会一致で承認
	3. 現行 専門医制度規則・規則施行細則の一部改正 (案) について	全会一致で承認
	4. 理事会一任 専門医制度規則の一部改正 (案) について	全会一致で承認
	5. 専門研修施設群の進捗状況について	全会一致で承認
平成 28 年 3 月 18 日	1. 2015 年度専門医認定更新結果について	全会一致で承認
	2. 2015 年度第 26 回指導医認定審査結果について	全会一致で承認
	3. 2015 年度指導医認定更新について	全会一致で承認
	4. 地方学術集会・全国規模学術集会・生涯教育プログラムについて	全会一致で承認
	5. セルフトレーニング問題作成について	全会一致で承認



⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	



## 事業報告の附属明細書

### 1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	新 田 孝 作	一般社団法人日本腎臓学会	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
常任理事	水 口 潤	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理事長	
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	
		公益社団法人 日本臨床工学技士会	理 事	
		公益財団法人 とくしま移植医療推進財団	理 事	
		日本臨床腎移植学会	監 事	
	中 西 健	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
特定非営利活動法人 日本アクセス研究会		監 事	一 部	
理 事	安 藤 亮 一	一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部
		一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会	副理事長	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
	伊 丹 儀 友	一般社団法人 日本小児腎臓病学会	理 事	
		一般社団法人 日本小児腎不全学会	監 事	
		一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	
	稲 葉 雅 章	一般社団法人 日本骨粗鬆症学会	理 事	
		日本骨形態計測学会	理 事	
		日本運動療法学会	理 事	
		日本疲労学会	理 事	
		一般社団法人 日本マグネシウム学会	理 事	
		公益財団法人 大阪腎バンク	理 事	
	岡 田 一 義	認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	
		一般社団法人 日本アフェレシス学会関西地方会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓学会西部部会	理 事	一 部
	土 谷 健	一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		日本慢性腎臓病対策協議会	監 事	一 部
		一般社団法人 埼玉医科大学医師会	理 事	
		特定非営利活動法人 LINE	代表理事	
	政 金 生 人	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
	峰 島 三 千 男	一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理事長	一 部
吉 田 克 法	一般社団法人 日本移植学会	理 事		
監 事	相 川 厚	公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク	理 事	
		特定非営利活動法人 腎臓サポート協会	理 事	
		特定非営利活動法人 日本子守唄協会	理 事	
		日本小児腎不全学会	監 事	
		日本臨床腎移植学会	理 事	
	宍 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	常務理事	一 部
	仲 谷 達 也	一般社団法人 日本泌尿器内視鏡学会	理 事	
		一般社団法人 日本性機能学会	理 事	
公益財団法人 大阪腎バンク		常任理事		

## 2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。